

令和7年度(2025年度) 事業報告

I. 京都教育大学環境教育実践センター一年譜

令和7年

- 1月10日 京都教育大学附属高等学校 授業科目「生物基礎」での農場見学（複数回）
- 1月14日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業
京都市立東山泉小中学校8年生受入（1月17日まで4日間）
- 2月10日 公開講演会（講師 山口雪子 岡山短期大学 准教授）
- 2月19日 公開講演会（講師 三浦励一 龍谷大学農学部 准教授）
- 2月21日 管理棟外壁等改修工事竣工（11月5日から着工）
- 3月 3日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業 次年度打合せ
- 3月 4日 京都教育大学附属幼稚園「栽培体験学習」始まる
- 3月16日 公開講演会（講師 日本野鳥の会 京都支部） 於 本学藤森キャンパス
- 4月16日 公開講座「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」始まる
（7月10日まで全5回）
- 4月20日 公開講座「京教大発・食を未来へつなぐ農業体験教室」および「学校園・幼稚園・保育園での草花・
野菜の栽培のための実技・春講座」始まる
（11月30日まで全10回および8月3日まで全5回）
- 5月12日 スタートアップセミナー「農場体験ツアー」始まる（6月30日まで9専攻）
- 5月14日 環境教育実践センター第1回所員会 於 F21 教室
- 5月31日 京都市環境保全活動推進協会の受託研究
「米づくりの体験に伴う環境学習の効果の研究」始まる
- 6月 3日 近隣幼稚園等によるジャガイモ収穫体験始まる（6月23日まで）
- 6月10日 京都市教育委員会「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業
京都市立深草中学校2年生受入（6月12日まで3日間）
- 6月11日 京都市環境保全活動推進協会によるオレンジプロジェクトの支援 始まる
- 8月 1日 伏見消防署による立入検査
- 8月26日 防火管理講習（8月27日まで2日間）
- 9月 7日 公開講座「学校園・幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技・秋講座」始まる
（11月30日まで全5回）
- 9月10日 公開講座「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」始まる
（12月3日まで全5回）
- 9月24日 同志社大学政策学部小谷ゼミによるオレンジプロジェクト支援 始まる
- 10月17日 近隣幼稚園等によるサツマイモ収穫体験始まる（10月29日まで）
- 10月19日 中京・花とみどりの会によるミツバチ採蜜体験
- 11月13日 環境教育研究年報第34号第1回編集委員会 メール審議
- 11月25日 第59回近畿地区教育系大学農場等協議会 於 和歌山大学
- 12月15日 環境教育研究年報第34号第2回編集委員会 於 センター機構棟・会議室

II. 公開講座の実施

本センターでは開放事業の中心的存在のひとつとして公開講座を位置づけており、令和7年度（2025年度）は5つの講座を実施した。

1. 「京教大発・食を未来へつなぐ農業体験教室」

(1) 内容

都市では土や植物に触れ、収穫の喜びを感じる機会がどんどん減ってきている。この講座では、4月から11月にかけて全10回にわたって、大学生と一緒に稲や様々な野菜の栽培を楽しみながら、食を支える農の大切さ、大変さを親子で体験してもらった。

(2) 受講者

小学生とその保護者 20組（40名）

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月20日	スイートコーン畑の準備と種まき 本学教授 南山泰宏
2	5月18日	スイートコーンの管理、ラッカセイの種まき、サトイモの植付け 本学教授 南山泰宏
3	6月8日	スイートコーンの追肥・土寄せ、ラッカセイの管理 本学教授 南山泰宏
4	7月13日	スイートコーンの収穫、イチゴの苗採り、サトイモの管理 本学教授 南山泰宏
5	8月3日	イチゴ苗の鉢上げ、茎ブロッコリーの種まき 本学教授 南山泰宏
6	9月7日	イチゴ苗の植付け、茎ブロッコリーの定植 本学教授 南山泰宏
7	10月5日	カブ・コマツナの種まき、ラッカセイの収穫 本学教授 南山泰宏
8	10月19日	サトイモの収穫、カブ・コマツナの間引き 本学教授 南山泰宏
9	11月9日	コマツナの収穫、茎ブロッコリーの収穫、イチゴの収穫 本学教授 南山泰宏
10	11月30日	カブと茎ブロッコリーの収穫、わら加工 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 1グループ5人に分かれて、畑の畝を整地し、3種類の肥料を施用した後、2条植え、株間30cmでスイートコーンの種子を2粒ずつ播いた。
- 第2回 スイートコーンは株間30cmごとに1株となるように間引きを行った。3種類の肥料を施用して整地した畝に、ラッカセイは1条植え、株間30cmで2粒ずつ種子を播き、サトイモは2品種の苗を株間50cmで植付けた。
- 第3回 スイートコーンは追肥をまいて土寄せを行った。ラッカセイは間引きと補植を行った。
- 第4回 4月から栽培してきたスイートコーンの収穫を行った。イチゴは苗採り用のポットに培土を入れて、親株から伸びたランナーのついた子株を植えて、抜けないようにピンで固定した。サトイモの追肥を行った。
- 第5回 前回はポットに植えたイチゴの子株が根付いていることを確認し、親株や他の子株と繋がっ

ているランナーをハサミで切り分けた。低温処理のため子株は植物インキュベーターに移し、余った子株は自宅栽培用に持って帰ってもらった。茎ブロッコリーの種を培土を入れたポットに3、4粒ずつ播いた。

- 第6回 低温処理したイチゴ苗をプランターに移植した。畑の畝に化成肥料を施用して整地し、1条植え、株間45cmで、茎ブロッコリーの苗を植え付けた。
- 第7回 ひとり約2m²の畑の畝を整地し、化学肥料を施用した後、コマツナとカブの種を播いた。5月から栽培してきたラッカセイの収穫を行った。
- 第8回 前回に種まきをしたコマツナとカブの間引きを行った。5月から栽培してきたサトイモの収穫を行った。
- 第9回 8月から栽培してきた茎ブロッコリーと10月から栽培してきたコマツナを収穫した。
- 第10回 10月から栽培してきたカブを収穫した。稲わらを使って、しめ縄づくりを行った。ヒヤシンスの水栽培について説明し、自宅での栽培用に球根を持って帰ってもらった。

2. 「学校園・幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技・春講座」

(1) 内容

様々な園では草花や野菜などを栽培していると思われるが、栽培経験が少なく適切な活動ができないといった声を聞くことがある。本講座では、園での植物の栽培をより充実したものにするために、栽培に関する基礎的な知識・技術を講義と実習により習得することを目指した。春講座では春播き一年草や夏野菜の栽培などを行った。

(2) 受講者

小・中学校教諭、幼稚園教諭、保育士 12名

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月20日	花と野菜の種まきと発芽について 花・野菜の種まき、スイートコーンの栽培 本学教授 南山泰宏
2	5月18日	苗づくりと土づくりについて 果菜類の管理、花苗の鉢上げ 本学教授 南山泰宏
3	6月8日	野菜と花の成長と栽培管理について 果菜類の管理、寄せ植え 本学教授 南山泰宏
4	7月13日	野菜類の施肥管理について 野菜の収穫とイチゴの苗採り 本学教授 南山泰宏
5	8月3日	多様な品種について 野菜の収穫とイチゴの鉢上げ 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 講義では、育苗する際の播種方法と播種後の管理について説明した。実習では、スイートコーンの栽培のための畑づくりと、春播き一年草の育苗箱への播種を行った。
- 第2回 講義では、土づくりと育苗管理の重要性と、具体的な管理方法について説明した。実習では、ナスの苗を畑に定植し、前回播種したスイートコーンの間引きと、春播き一年草の鉢上げを行った。
- 第3回 講義では、果菜類の着果習性とそれに合わせた整枝・剪定の方法について説明した。また、寄せ植えの作り方と管理技術について説明した。実習では、ナスの誘引、スイートコーンの追肥と土寄せ、春播き一年草の寄せ植えを行った。

- 第4回 講義では、野菜類の施肥管理方法と果菜類での追肥の重要性について説明した。実習では、スイートコーンの収穫とイチゴの親株から伸びたランナーについて子株を培土の入ったポットにピンで固定した。
- 第5回 講義では、同じ種類の作物でも様々な特徴を持った品種があることや、在来品種とはどのようなものか、どのような地域にどのような在来品種があるのか概説した。実習では、イチゴの子株が根付いていることを確認し、親株や他の子株と繋がっているランナーをハサミで切り分けた。

3. 「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」

(1) 内容

小学校や高齢者施設等での農園芸活動の担い手が不足していることから、それらの施設で園芸ボランティアとして活躍するための基礎的な知識・技術を習得することを目指した。春講座では主に野菜類（スイートコーンやナス）を中心に栽培実習を行った。

(2) 受講者

一般市民 14名

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	4月16日	栽培計画と苗づくりについて スイートコーンの播種、ジャガイモの植付け 本学教授 南山泰宏
2	5月7日	土づくりについて ナスの定植と野菜の管理 本学教授 南山泰宏
3	5月28日	果菜類の成長と整枝について ナスの誘引とスイートコーンの管理 本学教授 南山泰宏
4	6月18日	果菜類の施肥管理について ジャガイモの収穫とナスの整枝 本学教授 南山泰宏
5	7月9日	多様な品種について スイートコーンとナスの収穫 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 講義では、いつ、どこで、何を栽培するのか、栽培前に栽培計画を立てることと育苗管理の大切さについて説明した。実習では、肥料を与えて畝を整え、2条植えでスイートコーンを播種し、ジャガイモの種イモの植え付けを行った。
- 第2回 講義では、土づくりの大切さと具体的な土づくりの方法について説明した。実習では、ナスの苗を畑に定植し、前回播種したスイートコーンの間引きと補植、ジャガイモの中耕と追肥・土寄せを行った。
- 第3回 講義では、果菜類の着果習性について概説し、苗を植え付けた後の栽培管理（整枝・剪定）の方法とその重要性について説明した。実習では、ナスの誘引と整枝・剪定を行った。また、スイートコーンの中耕と追肥・土寄せを行った。
- 第4回 講義では、野菜類の施肥管理方法と果菜類での追肥の重要性について説明した。実習では、ジャガイモの収穫とナスの誘引と整枝を行った。
- 第5回 講義では、同じ種類の作物でも様々な特徴を持った品種があることや、在来品種とはどのようなものか、どのような地域にどのような在来品種があるのか概説した。実習では、ナスとスイートコーンの収穫を行った。

4. 「学校園・幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技・秋講座」

(1) 内容

様々な園では草花や野菜などを栽培していると思われるが、栽培経験が少なく適切な活動ができないといった声を聞くことがある。本講座では、園での植物の栽培をより充実したものにするために、栽培に関する基礎的な知識・技術を講義と実習により習得することを目指した。秋講座では秋播き一年草や冬野菜の栽培などを行った。

(2) 受講者

小・中学校教諭、幼稚園教諭、保育士 5名

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	9月7日	草花の種まきと育苗について 培土づくりと草花の種まき 本学教授 南山泰宏
2	10月5日	栽培計画と施肥管理について 草花の鉢上げと葉根菜類の播種 本学教授 南山泰宏
3	10月19日	秋植え球根の栽培と管理について ユリの繁殖、野菜の管理 本学教授 南山泰宏
4	11月9日	寄せ植え栽培と管理について 寄せ植え、ヒヤシンスの水栽培、葉菜収穫 本学教授 南山泰宏
5	11月30日	土づくりと堆肥づくりについて 根菜の収穫、わら加工 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 講義では、育苗する際の播種方法と播種後の管理について説明した。実習では、秋播き一年草の育苗箱への播種を行った。
- 第2回 講義では、いつ、どこで、何を栽培するのか、栽培前に栽培計画を立てることの重要性と冬野菜の施肥管理について説明した。実習では、播種した草花の鉢上げと、畑の畝を整地し、化学肥料を施用後、コマツナとカブの種播きを行った。
- 第3回 講義では、秋植え球根の栽培管理方法と春植え球根の管理方法について説明した。実習では、ポリエチレン袋とパーミキュライトを用いたテッポウユリの簡単な鱗片培養を行うとともに、播種した葉根菜類の間引き作業を行った。
- 第4回 講義では、寄せ植えの方法と植え付け後の管理について概説した。実習では、自分たちで種から栽培した花苗等を用いたコンテナガーデンの作成と、畑で栽培したコマツナの収穫、ヒヤシンスの水栽培を行った。
- 第5回 講義では、土づくりの大切さと、家庭での生ごみなどを利用した堆肥づくりについて説明した。実習では、畑で栽培したカブの収穫とセンターで行っている落ち葉堆肥づくりの様子を観察し、稲わらを用いたわら加工を行った。

5. 「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」

(1) 内容

小学校や高齢者施設等での農園芸活動の担い手が不足していることから、それらの施設で園芸ボランティアとして活躍するための基礎的な知識・技術を習得することを目指した。秋講座では1年生や球根の草花と葉根菜類を栽培し、堆肥づくりなどの実習を行った。

(2) 受講者

一般市民 14名

(3) 会場

本学 環境教育実践センター

(4) 講座日程と講師

回	日程	テーマと講師
1	9月11日	草花の種まきと育苗について 培土づくりと草花の種まき 本学教授 南山泰宏
2	10月9日	土栽培計画と施肥管理について 草花鉢上げと葉根菜類の播種 本学教授 南山泰宏
3	10月23日	秋植え球根の栽培について ユリの繁殖、野菜の管理 本学教授 南山泰宏
4	11月13日	寄せ植え栽培と管理について 寄せ植え、ヒヤシンス水栽培、葉菜の収穫 本学教授 南山泰宏
5	12月4日	土づくりと堆肥づくりについて 根菜類の収穫と 本学教授 南山泰宏

(5) 講座の概要

- 第1回 講義では、多様な花卉の園芸的分類と育苗する際の播種方法と播種後の管理について説明した。実習では、秋播き一年草を1人1種類用いて育苗箱への播種を行った。
- 第2回 講義では、いつ、どこで、何を栽培するのか、栽培前に栽培計画を立てることの重要性と冬野菜の施肥管理について説明した。実習では、播種した草花の鉢上げと、畑の畝を整地し、化学肥料を施用後、コマツナとカブの種播きを行った。
- 第3回 講義では、秋植え球根の栽培管理方法と、野菜類の施肥管理について説明した。実習では、ポリエチレン袋とバーミキュライトを用いたテッポウユリの簡単な鱗片培養を行うとともに、前回播種した葉根菜類の間引き作業を行った。
- 第4回 講義では、寄せ植えの方法と植え付け後の管理について概説した。実習では、自分たちで種から栽培した花苗等を用いたコンテナガーデンの作成、畑で栽培したコマツナの収穫、ヒヤシンスの水栽培を行った。
- 第5回 講義では、土づくりの大切さと、家庭での生ごみなどを利用した堆肥づくりについて説明した。実習では、畑で栽培したカブの収穫と、センターで行っている落ち葉堆肥づくりや有機リサイクルシステムの様子を見学した。

Ⅲ. 公開講演会

(1) 「「自然が好き」で広がる世界 ～身近な自然から得るさまざまな育み～」

対象：本学教職員、学生及び一般市民

日時：令和7年2月10日（月）午前10時30分～12時

講師：山口雪子 岡山短期大学 准教授

(2) 「身近な絶滅危惧植物の保全を考えなおす ～私たちは「中規模攪乱説」を理解しているか～」

対象：本学教職員、学生及び一般市民

日時：令和7年2月19日（水）午後2時～4時

講師：三浦励一 龍谷大学農学部 准教授

(3) 「早春の藤森キャンパスで野鳥を観察しませんか？」

対 象：本学教職員、学生及び一般市民
日 時：令和7年3月16日（日）午前9時～12時
講 師：日本野鳥の会京都支部

IV. 環境教育有機物リサイクルシステムの運転

平成16年度に「環境教育有機物リサイクルシステム」を設置し、平成17年3月より運転を行っている。令和2年3月にはシステム老朽化のため一部設備の更新を行った。

この設備は、栽培した植物の残渣、除草した雑草、剪定した枝を粉碎したもの等の有機物を発酵槽に投入して48時間で堆肥にし、さらに、この堆肥をペレット作製機および乾燥機にかけてペレット状堆肥にするシステムで、国立の教育系大学には初めて設置されたものである。

作製した堆肥は環境教育実践センターの栽培学習園に入れて植物栽培に利用して有機物のリサイクルを実施している。授業や公開講座等の中で、受講生とともに生ゴミ等の有機物の投入やペレット状堆肥の作製等の実習を行って、こうした有機物をリサイクルすることの大切さを指導している。

V. 中学生「生き方探究・チャレンジ体験」の受入

(1) 目的

「生き方探究・チャレンジ体験」は地域社会との連携をもとに教育の推進を図り、生徒自らの希望に基づいて、広く社会に出て、様々な体験活動や多くの人達とのふれあいを通して、自分を見つめ直し、よりよい生き方を考え、将来を切り拓いていく力や態度を養成する京都市立中学校・京都市教育委員会の事業である。本センターは京都市教育委員会協力事業所として中学生を受け入れて、協力している。

本年は京都市立中学校2校の中学生を受け入れた。

(2) 受入対象人数、及び期間

京都市立東山泉小中学校 令和7年1月14日～1月17日（9時30分～15時）

2年生 男子2名、女子3名、4日間、延べ20名

京都市立深草中学校 令和7年6月10日～6月12日（9時30分～15時）

2年生 男子4名、3日間、延べ12名

(3) 会 場

本学 環境教育実践センター

(4) 担 当

南山、辻、志賀

(5) まとめ

本センターの圃場や温室、実験室などでのいろいろな作業を中学生に経験してもらうことで、事業の推進に協力することができた。

VI. バイオマス利活用システムの運転と活用

構内で発生する樹木剪定枝等を粉碎した木質有機物（バイオマス）からペレット燃料を作成し、電気エネルギーを用いずに、本センター内の暖房を行っている。バイオマスの有効な利活用を通じて「資源の循環」の大切さを示し、ペレット燃焼灰は栽培学習園の土壌改良材として用いている。また、栽培学習園では、植物の生産－利用－残渣の堆肥化－生産という「食の循環」を実践しており、樹木の剪定枝等も堆肥化を行っていたが、本システムにより樹木の剪定枝等の木質有機物を堆肥化するだけでなく、エネルギーとし

てのバイオマス利活用を示して、樹木の生産－不要部分の利活用－部屋の暖房－燃焼灰の施用－生産という「資源の循環」を実現して、学生や公開講演会の受講生等に啓蒙している。

Ⅶ. 地域ボランティアの受入

地域のボランティアによる環境教育実践センターの栽培学習園や建物の周囲等の除草、培養土づくり、草花苗や野菜苗の鉢上げ、ラン鉢の植え替え、ジャガイモ、サツマイモ管理、ネギ植えつけ、樹木の名札整備、落ち葉集め、花壇への草花の植えつけ等の作業への協力が行われた。今年度は数名の方が、月に1回程度の活動を実施された。

京カレッジの受講生のうち数名のボランティアによって、夏休み（8～9月）、春休み（2～3月）において農業実習Ⅰ、農業実習Ⅱで栽培している植物への管理作業や休み中における植え付け等の活動が実施された。

Ⅷ. 2025年度 環境教育実践センター利用状況

(2025年12月31日現在)

1. 授業・実習等（回数128、延べ1,590名）

- 1) 農業実習Ⅰ・学校園における農園芸実習Ⅰ（南山）40名受講、15回、延べ600名
 本学学生19名（幼児教育専攻1名、発達障害教育専攻1名、国語領域専攻1名、英語領域専攻2名、数学領域専攻1名、理科領域専攻2名、技術領域専攻2名、家庭領域専攻4名、体育領域専攻1名、留学生4名）、科目等履修生2名、大学コンソーシアム京都2名、京カレッジ受講生17名
- 2) 農業実習Ⅱ・学校園における農園芸実習Ⅱ（南山）33名受講、15回、延べ495名
 本学学生15名（国語領域専攻1名、技術領域専攻1名、美術領域専攻1名、体育領域専攻1名、留学生11名）、科目等履修生1名、京カレッジ受講生17名
- 3) スタートアップセミナー（南山）9専攻（各専攻1回ずつ）、延べ239名
 本学学生239名（教育学専攻29名、幼児教育専攻20名、発達障害教育専攻18名、国語領域専攻26名、社会領域専攻38名、数学領域専攻32名、理科領域専攻42名、技術領域専攻18名、家庭領域専攻16名）
- 4) 小学校理科教材論B（南山他3名）17名受講、3回、延べ51名
 本学学生17名（理科領域専攻17名）
- 5) 植物組織培養論（南山）1名受講、15回、延べ15名
 本学学生1名（理科領域専攻1名）
- 6) 園芸と環境Ⅱ（古平）5名受講、11回、延べ55名
 本学学生4名（理科領域専攻1名、技術領域専攻3名）、科目等履修生1名
- 7) 環境園芸学演習Ⅰ（南山）3名受講、15回、延べ45名
 本学学生3名（理科領域専攻1名、技術領域専攻2名）
- 8) 環境園芸学演習Ⅱ（南山）2名受講、15回、延べ30名
 本学学生2名（理科領域専攻1名、技術領域専攻1名）
- 9) 環境園芸学実験実習（南山）2名受講、15回、延べ30名
 本学学生2名（技術領域専攻2名）
- 10) 技術科教育実践演習－生物育成－（南山）2名受講、15回、延べ30名
 本学院生2名（教科学習探究コース2名）

2. 公開講座（回数30回、延べ625名）

- 1) 「農園芸活動支援ボランティア養成・春講座」
受講者数：14名（計5回、延べ70名）
（令和7年4月16日から7月9日まで一般市民を対象に実施）
- 2) 「京教大発・食を未来へつなぐ農業体験教室」
受講者数：20組40名（計10回、延べ400名）
（令和7年4月20日から11月30日まで小学生とその保護者を対象に実施）
- 3) 「学校園・幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技・春講座」
受講者数：12名（計5回、延べ60名）
（令和7年4月20日から8月3日まで小・中学校教諭、幼稚園教諭等を対象に実施）
- 4) 「農園芸活動支援ボランティア養成・秋講座」
受講者数：14名（計5回、延べ70名）
（令和7年9月10日から12月3日まで一般市民を対象に実施）
- 5) 「学校園・幼稚園・保育園での草花・野菜の栽培のための実技・秋講座」
受講者数：5名（計5回、延べ25名）
（令和7年9月7日から11月30日まで小・中学校教諭、幼稚園教諭を対象に実施）

3. 公開講演会（回数3回、延べ61名）

- 1) 「自然が好き」で広がる世界 ～身近な自然から得るさまざまな育み～ 受講者数：22名
- 2) 「身近な絶滅危惧植物の保全を考えなおす ～私たちは「中規模攪乱説」を理解しているか～」
受講者数：25名
- 3) 「早春の藤森キャンパスで野鳥を観察しませんか？」 受講者数：14名

4. 学内及び附属学校園の利用（延べ406名）

- 1) 附属幼稚園：ジャガイモ、サツマイモ、収穫及び見学（延べ256名）
- 2) 附属高等学校：科目「生物基礎」での農場見学（延べ150名）

5. 学外の利用（延べ1,034名）

- 1) ジャガイモ、サツマイモ収穫及び見学
市内幼稚園（京都聖母学院幼稚園、西福寺幼児園、聖ドミニコ学院京都幼稚園、竹田幼稚園、伏見板橋幼稚園、伏見住吉幼稚園、楊梅幼稚園、西院幼稚園）、保育園（墨染保育園、住吉西保育園、みどり保育園）、認定こども園（モーツァルトしずかこども園）、延べ18園 744名
- 2) 「生き方探究・チャレンジ体験」受入
京都市立東山泉小中学校、京都市立深草中学校、中学生9名、延べ32名
- 3) 「オレンジガーデニングプロジェクト活動」への協力
認知症啓発のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てる活動の支援
京都市環境保全活動推進協会 8名
同志社大学政策学部小谷ゼミ 延べ10名
- 4) 「中京・花とみどりの会」によるミツバチ採蜜体験 40名
- 5) ボランティアによる活動受入、延べ200名

6. 学校園の緑化への協力（藤森学舎、附属学校園、市内学校園）

花壇用草花苗、鉢物、樹木苗木の提供、花壇の管理、指導

7. 利用者合計 3,716名